

## V 現存植生図を基礎とした環境診断

### Umweltdiagnose auf Grund der Karte der realen Vegetation

#### 1. 現在残されている緑

##### Noch erhaltene Grünfläche

藤沢市に現在残されている緑は、自然植生から代償植生まできわめて多様である。自然植生は江の島や竜口寺にまとまった面積で残されているが、その他は点として、藤沢市域に広く散在している。とくに平地よりも斜面に残されている緑が多い。

平坦地では、本鵠沼五丁目の線路わきの小さな祠のまわりと皇太神宮にイノデータブノキ群集が残されている。また諏訪神社裏の小凸状地に、イノデータブノキ群集の小林分がみられる。これらは平坦地に残された自然に近い緑だが、他は丘陵地の斜面や尾根部、あるいは台地斜面や肩部に残されている。それぞれ点として残されている。わずかに面積的に広い場所は、江の島や竜

Tab. 33 藤沢市に残されている緑一覧  
Übersicht der noch erhaltenen natürlichen und naturnahen Vegetation in der Stadt Fujisawa

地 名 Orte	調査地点図 番 Nr. d. Aufna- hmekarte	植 分 Wälder u. Bestände
1. 江 の 島 Insel Enoshima	E 36 E 6 F 15 E 10 F 7	ヤブコウジースダジイ群集 Ardisio-Castanopsietum sieboldii イノデータブノキ群集 Polysticho-Perseetum thunbergii マサキートベラ群集 Euonymo-Pittosporietum tobira
2. 竜 口 寺 Tempel Ryukoji	A E 1 A E 2	ヤブコウジースダジイ群集 Ardisio-Castanopsietum sieboldii イノデータブノキ群集 Polysticho-Perseetum thunbergii
3. 川名御霊神社 Shinto-Schrein Kawanagoryo-jinja	F 52	ヤブコウジースダジイ群集 Ardisio-Castanopsietum sieboldii イノデータブノキ群集 Polysticho-Perseetum thunbergii
4. 川 名 地 域 Kawana-Gebiet	F 21 F 52 } F 61	オニシバリーコナラ群集 Daphno pseudo-mezerei- Quercetum serratae ヤブコウジースダジイ群集 Ardisio-Castanopsietum sieboldii イノデータブノキ群集 Polysticho-Perseetum thunbergii
5. 西原翠ヶ丘公園（西富） Park des Nishihara Midorigaoka in Nishitomi	F F 6	ヤブコウジースダジイ群集 Ardisio-Castanopsietum sieboldii

地 名 Orte	調査地点図 番 Nr.d. Aufna- hmekarte	林 分 Wälder u. Bestände
6. 片 瀬 Katase		ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i> オニシバリーコナラ群集 <i>Daphno pseudo-mezerei-</i> <i>Quercetum serratae</i>
7. 西富遊行寺 Tempel Yugyoji des Nishitomi	FF 4 FF 2 FF 3	ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i> イノデータブノキ群集 <i>Polysticho-Perseetum thunbergii</i>
8. 大鋸諏訪神社 Shinto-Schrein Suwa-jinja des Ogiri	FF 5	ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
9. 鵜沼皇太神宮 (鳥森神社) Shinto-Schrein Kotaijingu des Kugenuma (Karasumori-jinja)	FM 30	イノデータブノキ群集 <i>Polysticho-Perseetum thunbergii</i>
10. 稲荷馬瀬大庭神社 Shinto-Schrein Ohba-jinja des Inari, Mase	FM 36	ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
11. 藤沢白旗神社 Shinto-Schrein Shirahata-jinja des Fujisawa	FF 11 FM 18	イノデータブノキ群集 <i>Polysticho-Perseetum thunbergii</i>
12. 聖園女学院 Misono-Jogakuin	FF 13	イノデータブノキ群集 <i>Polysticho-Perseetum thunbergii</i>
13. 石川斜面林 Ishikawa	FM 42	ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
14. 渡内日枝神社 Shinto-Schrein Watauchi-Hieda- jinja	MK 4	ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
15. 柄沢神社 Shinto-Schrein Karasawa	MK 3	ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
16. 葛野寺 (葛原) Tempel Kuzuno des Kuzuhara	MK 2	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>
17. 上高倉諏訪神社 Shinto-Schrein Suwa-jinja des Kami-Takakura	FF 29 FM 84	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i> ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
18. 今田保存樹林 Shutzwald des Imada	FF 22	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>
19. 葛原屋敷林 Hauswald des Kuzuhara	FM 160	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>
20. 葛原屋敷林 Hauswald des Kuzuhara	FM 164	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>

地 名 Orte	調査地点図 番 Nr. d. Aufna- hmekarte	林 分 Wälder, Bestände u. Landschaft
21. 東勝善寺 Tempel Toshozen-ji	F F 21	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>
22. 二伝寺(渡内) Tempel Niden-ji		ヤブコウジースダジイ群集 <i>Ardisio-Castanopsietum sieboldii</i>
23. 日吉神社(折戸) Shinto-Schrein Hiyoshi Orito		イノデータブノキ群集 <i>Polysticho-Perseetum thunbergii</i>
24. 下土棚屋敷林 Hofwald des Shimotsuchidana	F F 16	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>
25. 高倉屋敷林 Hofwald des Takakura	F F 20	シラカシ群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>
26. 辻堂海岸 Küsten-Dünen Tsujido	FM 1~14 E 12~25	ハマグルマーコウボウムギ群集 <i>Wedelio-Caricetum kobomugi</i> ハマグルマーケカモノハシ群集 <i>Wedelio-Ischaemetum anthephoroidis</i> コウボウシバ群落 <i>Carex pumila</i> -Gesellschaft
27. 宮原, 瀬郷, 打戻の田園景観 Acker-Landschaft von Miyahara, Ucimdori u. Osogo		Äcker, Reisfelder u. Hauswälder
28. 葛原, 遠藤の雑木林 Sekundäre Wälder von Kuzuhara u. Endo	FM 47・48・53	クスギーコナラ群集 <i>Quercetum acutissimo-serratae</i>

口寺以外に、藤沢小学校東斜面、東勝寺、遊行寺裏山、川名御霊神社、芙蓉カントリークラブ北東斜面、裏河内、柄沢神社、大庭などにイノデータブノキ群集とヤブコウジースダジイ群集が残存林としてみられる。また葛原、用田、遠藤などには屋敷林としてシラカシ群集が多くみられる。シラカシ群集は、一部屋敷林として植栽されているところもある (Fig. 11)。しかし、自然に生育しているところも多く、自然植生として扱われた。

このような常緑広葉樹林の他に、藤沢市ではまだ水田、畑、雑木林、常緑広葉樹林がセットで残されている、景観的にもまた市民の“森林浴”、“憩いの場”、“エネルギーの源”として価値が高い地域がある。川名は新林に新しい公園が建設されているが、人為的に手を加えずとも、裏側には子供達の野外授業にも使える田園景観域が広く残されている。ここは最後に藤沢市に残された片瀬山風致地区（赤山付近）とともに、藤沢市民ひいては、神奈川県民の都市における保存緑地として残したい。

藤沢市北部では高倉、あるいは葛原に植林や雑木林が1971年からまだ大規模な開発もされずに残されている。自然林は人為的影響を与えず、自然の聖域として残す地域であるならば、このような雑木林や植林、あるいは田園景観域は人間と自然とのゆるやかなふれあいの場として、将来

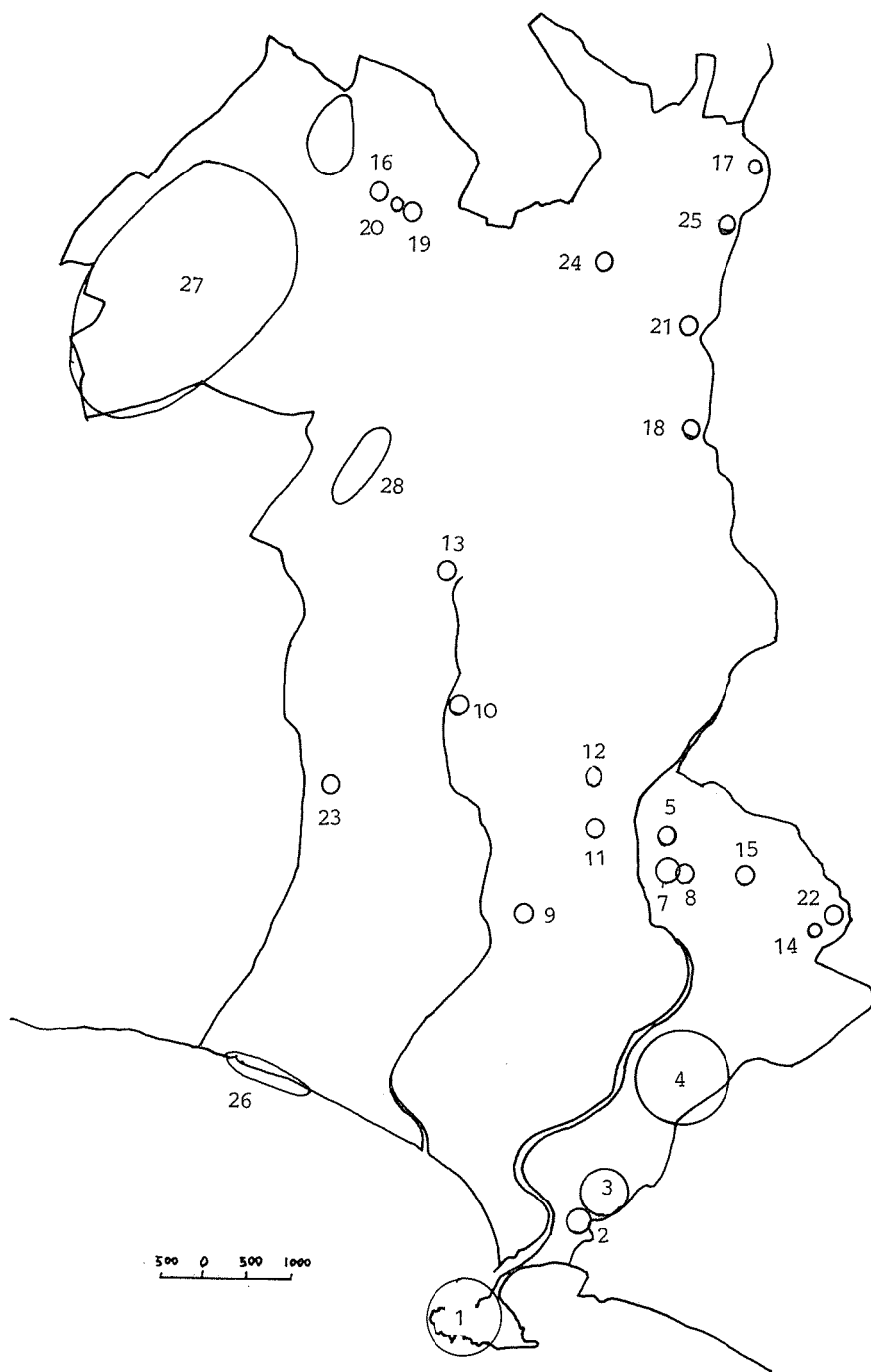


Fig. 45 藤沢市に残されている主な緑の位置図 (Tab. 33参照)  
 Orte mit wichtigen, noch erhaltenen Grünflächen in der Stadt. (vgl. Tab. 33)

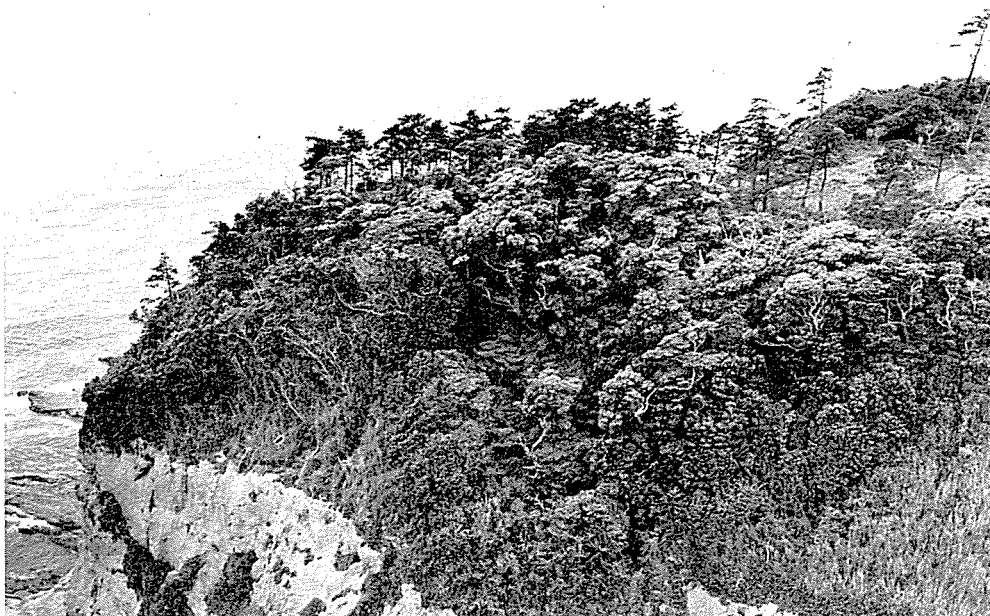


Fig. 46 江の島の肩部に残されているヤブコウジスダジイ群集。後部に代償植生のクロマツ植林がみられる。

Auf den Rücken der Insel Enoshima wachsendes *Ardisia-Castanopsisietum sieboldii*. Dahinter wächst ein *Pinus thunbergii*-Forst.



Fig. 47 諏訪神社のイノデータブノキ群集のタブノキ。沖積地のやや小凸状地に残されている（片瀬 10m）。

*Polysticho-Perseetum thunbergii* im Shinto-Schrein Suwa (Katase 10m ü. NN).



Fig. 48 柄沢神社に残されているヤブコウジースダジイ群集 (柄沢 40m)。  
Am Shinto-Schrein Karasawa erhaltenes *Ardisio-Castanopsietum sieboldii*  
(Karasawa 40m ü. NN).



Fig. 49 モモ果樹園と、丘陵地に残されているヤブコウジースダジイ群集  
(川名森久 海拔8.4m)。  
Voll-erblühter *Prunus persica*-Obstgarten und Restbestand des *Ardisio-Castanopsietum*  
*sieboldii* auf einem Hügel (Morihiwa in Kawana 8.4m).



Fig. 50 林縁に開花しているタチツボスミレ (本町1丁目 18m)。

In Waldsäumen blüht *Viola grypoceras* (Honcho 18m ü. NN).

にわたって発展してゆく人間の英知のわきいでる泉としての役割をもつ。そこには小動物、野鳥や昆虫も含めた生態系が残されており、都市の中の忙しさを忘れさせる生命の集合体がある。道端にはタチツボスミレやキブシが春季に花をつけ、あるいは、林内からのぞくヤブツバキが冬季に赤い花をみせ春まで皆を楽しませる余裕がある (Fig. 50~55)。雑木林や植林地がかこむ田園地は長い間人間と共存してきた自然である。したがって、自然林のように畏怖の念を与えることなく、やすらぎをさえ与える。冬季の落葉は暖かい日射しを林内に入れ、春季の新緑は春の息吹きを伝える。夏季の厚く発達した葉でおおわれた林は、涼しい風と木陰を与える。秋季の紅黄葉は、秋の訪れを知らせ、四季折々の日本の景観に色彩を与える。

藤沢市に残された緑は、自然林とともに、このような最後に残された田園景観がある。また巨木の保存指定も行なわれ、上高倉諏訪神社のスタジオは直径1mに達している老木がある。

北部では、用田の丘陵谷間は、斜面はクヌギ・コナラ群集の雑木林、谷部は水田耕作地に、谷





Fig. 51 早春に地味な花をつけるキブシ (川名 8 m)。  
Im Vorfrühling blühender Strauch von *Stachyurus praecox* (Kawana 8m).



Fig. 52 藤沢市の常緑広葉樹林を彩るヤブツバキ (大庭台 10m)。  
Rote Blume der *Camellia japonica*, welche die immergrünen Laubwälder in der Stadt Fujisawa bunt färbt (Obadai 10m ü. NN).



Fig. 53 クヌギ-コナラ群集, ウワミズザクラ亜群集, コブシ変群集の林内相観 (長後 40m)。  
Sommergrüner Sekundärwald vom *Quercetum acutissimo-serratae*, Subass.  
von *Prunus grayana*, Var. von *Magnolia kobus* (Chogo 40m ü. NN).



Fig. 54 クヌギ-コナラ群集の雑木林の構成種であるヤマザクラ (大庭城山 25m)。  
Voll-erblühte *Prunus jamasakura*, eine Art des *Quercetum acutissimo-serratae*  
(Obashiroyama 25m).



Fig. 55 クヌギコナラ群集の林床に生育するホンモンジスゲ (大庭台 10m)。  
*Carex pisiiformis* in der Bodenschicht des Waldes vom *Quercetum acutissimo-*  
*serratae* (Obadai 10m ü. NN).

部奥はスギ植林というように上手く自然が組み合わせられ、西日のもとに住宅地を眺望すると、弥生時代からつづく夕げの煙があがる田園景観を形成している。水田耕作放棄地には、ヨシ群落やヒメガマ群落が復元している。



Fig. 56 高倉諏訪神社の御神木のスダジイ，直径約1 mに生長している（高倉 30m）。

Alter Baum von *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* im Suwa-Shinto-Schrein mit 1m in DBH (Takakura 30m ü. NN).



Fig. 57 水田耕作放棄地に生育したヒメガマ植分（用田 20m）。

Auf einem aufgelaassenen Reisfeld wachsender *Typha angustata*-Bestand  
(Yoda 20m ü. NN).

## 2. 破壊された自然環境

### Verarmte natürliche Umwelt

藤沢市では急激な住宅地増加に伴い現在数ヶ所の造成地がみられる。現在進行中の造成地に関しては、まだまだ緑地を復元する必要がある。湘南ライフタウン北部は、まだ宅地ができてだけで、南部のような緑地復元はできていない。一面に茶色の土が広がり、白い建物が並んでいる状態である。とくに新興住宅地については、質の濃い並木の整備、住宅地の中の公園地などに小さな面積ながら自然や半自然林が創造されることにより緑の網目をかぶった地域ができあがる。工場地帯においても同様で、緑の工場における緑化率が決められおり、現在も藤沢市では10～20%の緑化率規定が行なわれ積極的に進められて緑も多くなってきてはいる。しかし、空中写真からみた工場敷地には、緑はきわめて少ない。少なくとも、工場周辺に可能な限り緑の帯をつくることが、最低限の義務になるのではないだろうか。また工場地帯の道路の並木はできるだけ密度を濃くすることが必要とされる。緑のリボンで工場をかこむことが期待される。

### 3. 弱っている緑

#### Geschwächte Grünfläche

藤沢市では、現在各地で問題になっているマツクイ虫などの被害はきわめて少ない。わずかに川名や大庭のクロマツの頂部が弱ってきているにすぎない。元来クロマツは、海岸沿岸部の先駆植物である。したがって、クロマツや、アカマツは立地が安定してくることによって世代交代を行なう。藤沢市では、斜面にアズマネザサとともに2～3層群落を形成しているクロマツ林がみられるが、一部風衝が強い立地では、クロマツが弱っているところが見られる。その他では、マツクイムシなどでクロマツ林が大きく弱った姿は見られない。

1982年に襲った大型台風は江の島に生育する大木のタブノキの枝を枯らせ、湘南海岸の植木に大きな被害を与えたが、その後、それぞれ土地に合った植物は、活力をとりもどし、1983年の調査では、後遺症は残っていなかった。したがって藤沢市の緑の大部分は土地と人々の生活に適合した植生配分が行なわれていることが考察される。

### 4. 緑地増減の地区とその面積

#### Zu- und Abnahme von Grünflächen

藤沢市における地域毎の樹林面積計算が、方眼計算により集積され、Tab. 34 に示された。全く樹林が残されていない地域は南藤沢、朝日町、藤ヶ岡、大鋸飛地、桐原町である。南藤沢、朝日町、藤ヶ岡には小面積ながら、公園緑地がつくられており、全く緑がないわけではないが、大清水地区は現在造成後、高校他の建設が行なわれている。東部下水処理場も含め、緑の環境保全林を創造し、樹林地を少しでも形成されることが期待される。これらの地域は1971年にも樹林地はなかった。

Tab. 34 藤沢市に残されている緑の面積集積表 (1983年)

Grünflächen und ihre Ausdehnung in der Stadt Fujisawa in 1983.

単位: ha

	南 S—Teil	北 N—Teil	合 Summe
自 然 林 Natürliche Wälder	27.42	30.87	58.29
自 然 草 原 Naturwiesen	4.59	0	4.59
雑 木 林 Mischwälder	138.64	118.89	257.53
常 緑 広 葉 樹 植 林 Immergrüne Laubholzforsten	0.36	1.08	1.44
常 緑 針 葉 樹 林 Immergrüne Nadelholzforsten	216.63	214.28	430.91
竹 林 Bambusbestände	4.77	42.66	47.43
計 Summe	392.41	407.77	800.19



1971年来減少した地区には宮原，遠藤，大庭，鶴沼などがあげられる。それぞれ，住宅地の増加によるもので，遠藤，大庭については湘南ライフタウンの造成が影響している。縮尺1：15 000（1983年）と1：10 000（1971年）の比較の結果，面積的には変動差はわずかにある。

## 5. 植 生 遷 移

### Vegetationssukzession

明治15年の陸軍参謀本部が作製した地形図をみると，藤沢市の南部相模平野は沼やヨシ湿原の荒れ地がつづいていた。引地川，境川は蛇行し，川の流れに沿って河辺植生が多くみられる。古砂丘地帯は，当時すでに畑耕作地に利用され，集落は辻堂村，鶴沼村，片瀬村と東海道沿線にまよってみられたにすぎない（Fig. 58）。現在の地形と比較して大きな相違がよく理解される。

現在クロマツ植林が行なわれている地域は，砂丘植生が広がり，その後の古砂丘地の砂丘列上にクロマツ林が南北に数列並んでいた。現在残されているクロマツ林の原形であろう。藤沢市南部の当時の畑耕作地は現在その大部分が住宅地に利用されている。

藤沢市中北部の洪積台地地域も，台地上の平坦地を除き斜面はクロマツ林が広くみられた。北部では各地の斜面にわずかにスギ，ヒノキ林があり，台地上平坦地を中心に大部分が耕作畑地に利用されていたようである。したがって現在残されている雑木林であるクヌギ・コナラ群集，オニシバ・リーコナラ群集，あるいは自然植生に近いシラカシ群集，イノデ・タブノキ群集，ヤブコウジ・スダジイ群集は比較的歴史が浅いものと考えられる。

藤沢市の植生のうち主とした自然林のシラカシ群集とイノデ・タブノキ群集について，群落環が Fig. 59, 60 に示されている。それぞれの林分と人為的影響のかかわり方，また植生遷移が理解される。

Tab. 35 藤沢市に残されている緑の集積表（1971年）  
Grünflächen und ihre Ausdehnung in der Stadt Fujisawa in 1971.

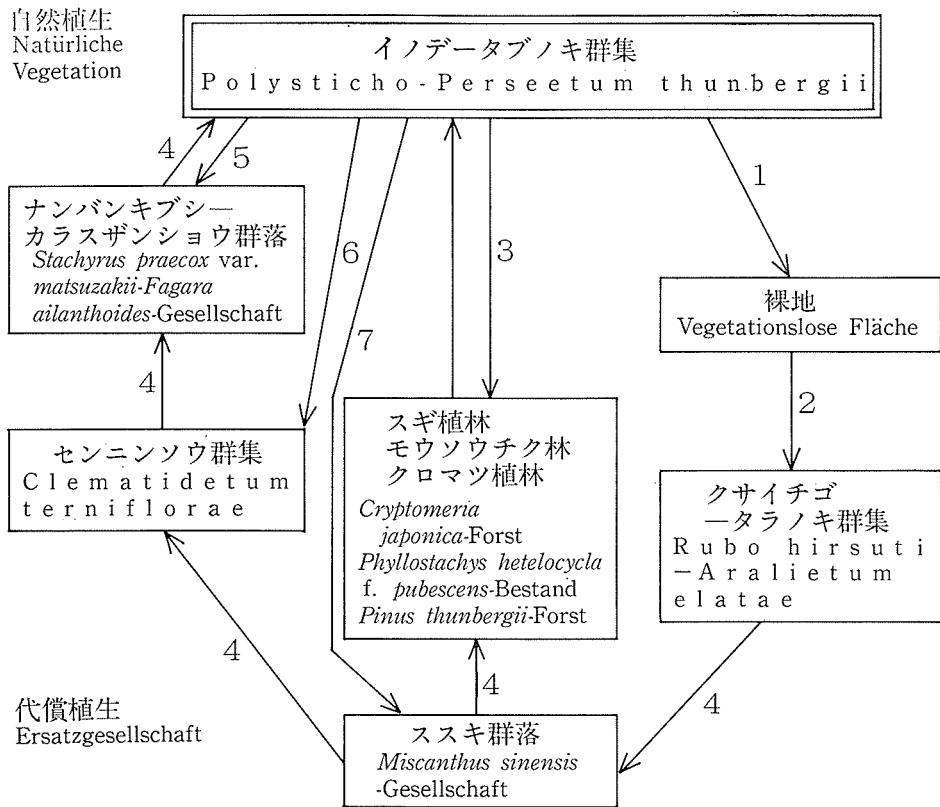
単位：ha			
	南 S—Teil	北 N—Teil	合 Summe
自 然 林 Natürliche Wälder	29.04	51.00	80.04
自 然 草 原 Naturwiesen Wälder	6.88	0	6.88
雑 木 林 Mischwälder	75.72	88.28	164.00
常 緑 広 葉 樹 植 林 Immergrüne Laubholzforsten	0	0.16	0.16
常 緑 針 葉 樹 林 Immergrüne Nadelholzforsten	263.08	350.68	613.76
竹 林 Bambusbestände	41.60	37.36	78.96
計 Summe	416.32	527.48	943.80



Fig. 58 明治15年の現在の藤沢市域現況図（陸軍参謀本部）。

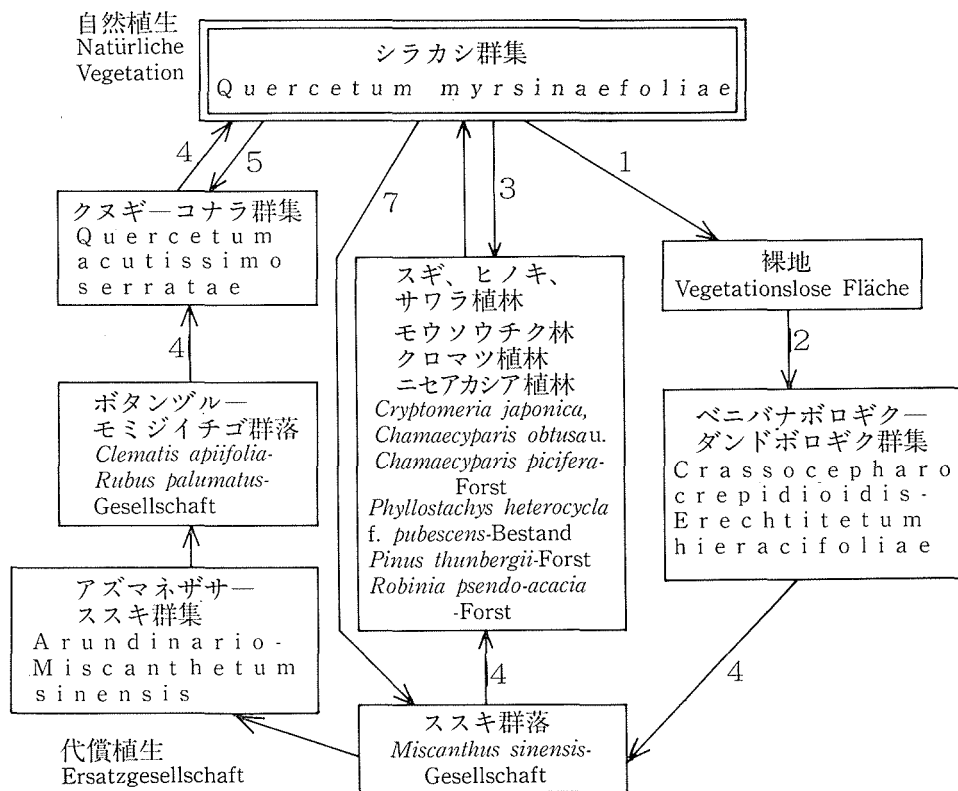
Eine alte Karte der Stadt Fujisawa in 1882 (nach Generalstabskarte).





1. 森林伐採 Kahlschlag des Waldes
2. 伐跡群落 Kahlschlaggesellschaft
3. 植林, 下草刈り Aufforstung u. Pflegemaßnahmen
4. 放 置 Fläche der Natur überlassen
5. 10~15年に1度伐採 Mahd alle 10-15 Jahren
6. 急激な破壊 Schlagartige Zerstörung
7. 5~10年に数回草刈り Mahd od. Brand alle 3-5 Jahre

Fig. 59 イノデータブノキ群集群落環 (⇒人為的干渉)  
Gesellschaftsraumgefüge des *Polysticho-Perseetum thunbergii*  
(⇒Menschliche Wirkungen)



1. 森林伐採 Kahlschlag des Waldes
2. 伐跡群落 Kahlschlaggesellschaft
3. 植林, 下草刈り Aufforstung u. Pflegemaßnahmen
4. 放置 Fläche der Natur überlassen
5. 10~15年に1度伐採 Mahd alle 10-15 Jahren
6. 急激な破壊 Ruckartige Zerstörung
7. 数年に1回の刈りとり Mahd od. Brand alle 3-5 Jahre

Fig. 60 シラカシ群集群落環 (⇒人為的干渉)  
Gesellschaftsraumgefüge des *Quercetum myrsinaefoliae* (⇒Menschliche Wirkungen)

## 6. 13年間の藤沢市の自然環境の変遷と隣接都市との比較

Veränderung der natürlichen Umwelt in der Stadt Fujisawa während 13 Jahren  
im Vergleich mit den Nachbarstädten

藤沢市は1968年以来1983年までに藤沢市西部都市開発として、全国でもはじめての大型都市開発が行なわれ、1971年の植生調査以来実に10万人以上の人口の増加が示された。しかし、自然環境は、これだけの増加に反して大きな変化はほとんどないといっても過言ではない。隣接する横浜市では、もうほとんど拠点的に緑が残されているにすぎない（宮脇・藤原 1984）。

横浜市南部では宅地開発におわれ、最後に残されていた半自然生の緑まで造成し、現在では、台地、丘陵地周辺に細々と、さらに、北部の市街化調整地域に入っているところだけが、わずかに残されているにすぎない。これら小面積の残存自然林分も人口圧によって宅地開発に供される危険度が高い。

大和市、綾瀬市も同様に田園景観域から、都市住宅地域への転換は著しい。寒川町、茅ヶ崎市は、従来から田園都市的で、藤沢市隣接都市域ではもっとも都市化が遅れている地域とされていたが、近年じわじわと宅地化の波が押しよせている。それでも、まだ藤沢市や他市ほどには開発が進んでいない。

藤沢市における自然林にまとめられる地域や、広く自然および半自然植生が残されている地域は、Tab. 33 に示される。1971年の植生調査および、1972年の植生自然度調査、自然度図作製、環境保全林設定図時の地域とは約 100 ha の樹林の減少がみられる。環境庁による 1983 年度の藤沢、横浜周辺の現存植生図調査においても、藤沢市の現存植生の配分は 10 数年前と大きな変化がないことが理解され、相対的に周辺都市の変貌が大きいことが判定される。

藤沢市の植生の大きな変化は、藤沢市北部用田、葛原に苗圃（植栽園）がきわめて面積広く行なわれていること、耕作畑地や、耕作放棄地が減少して住宅地が増加したことがあげられる。丘陵地、台地の斜面の樹林は、比較的自然に近い林分は全て藤沢市保存樹林に指定され保全されている。また、湘南ライフタウンや駅周辺、さらに市役所周辺は郷土の森の構成種である常緑広葉樹を主体とした環境創造が行なわれ、緑の都市づくりが進められている。

都市を市街地化し、人口を増やすことは簡単な仕事であるが、人口増加に伴った緑の減少を最少限に押さえ、さらに都市における環境創造を行なうためには、市全体の行政のまとまりがなければできない。最近10数年間に特に大きな植生変化を生じさせなかったが、新しい目で再度藤沢市をみなおし、都市の中の緑環境の点検、残された緑の管理、現在もっとも少ない工場地内の緑地指導など、さらに新しい都市開発に伴う緑地への影響を評定してゆかなければ、近隣都市のような緑の減少を今後さらに拡大させてゆくものと考察される。